

大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

大 学 名	千葉大学
整理番号	L-3
事 業 名	ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	<p> 本プログラムは、日本と中南米諸国の都市圏が抱える課題に挑み、新たなポスト・アーバン・リビング・イノベーションに貢献する実践型人材の育成を目指し、「文系」学生が得意な事業計画や販売戦略と「理系」学生が得意な技術開発とその応用を組み合わせた文理混合の全学型プログラムを実施するとともに、事業成果を産業化する枠組みとして大学発ベンチャー企業の定着をアウトカムに据えたプログラムとして実施され、企業の製品・事業開発のプロセスをカリキュラムに導入している点がユニークであり、インターンシップも含めたジョブ・ベースド・ラーニング（JBL）型の新しい方法を確立している。 </p> <p> プログラム展開では、学部の学生に対しては、「国際日本学」として副専攻の学位とサーティフィケートを、大学院の学生に対しては、「大学院国際実践教育プログラム」として副専攻の学位とサーティフィケートを付与する制度を整備し、学部・大学院の正式科目として取組むことで、派遣・受入双方の学生に関して、プログラムの質の保証を担保している。また、大学発ベンチャー企業への展開を見据えて、次世代の人間生活に関する多様な課題を設定した8つのプロジェクトにおいても複数の起業に繋がる事例が出るなど、着実な成果をあげており、本プログラムの目指す実践型人材育成がなされている。さらに、プログラム運営においては、メキシコ・モンテレイ IEC(International Exchange Center)オフィスの設置及び学内での専門職員（アマヌエンシス）の配置により、渡日前後に渡り一貫した受入体制が整備されていることに加え、在日本メキシコ大使館、在日本パナマ大使館、在メキシコ日本大使館、在パナマ日本大使館との連携協力体制が確立されている点は評価できる。 </p> <p> 一方で、派遣・受入実績数が計画を下回っており、派遣学生数のほとんどが短期派遣で占められていることや、目標に掲げたジョイント・ディグリーとダブル・ディグリーの設置が未達である。本プログラムの8つのプロジェクトと5つのチャレンジの成果の関係性及び人材育成に関する具体的な評価指標や方法が不明確であることから対応が望まれる。 </p> <p> 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。 </p>